



進路だより

2021. 3. 9
福井大学教育学部附属特別支援学校
進路指導部
《第3号》



今年度卒業生の進路先

3年間の事業所体験や現場実習、日々の進路学習を経て、3年生7名の進路先が決まりました（1名の生徒については利用する事業所を選定中）。今年度は春の実習は中止となり、3年生の進路決定に際し、不安を抱える生徒もおりましたが、夏休み、秋の現場実習を経て、それぞれが今の自分に適した事業所、企業はどこかを考え、意思決定することができました。

秋の現場実習では、6名が「就労アセスメント」を実施しました。就労アセスメントは、本人が本当に適した進路先はどこか、本人の強みや弱みは何かを外部の方に評価していただけます。卒業後すぐに就労継続支援B型を利用する生徒は実施する必要があります。今年度は2名の生徒がこの就労アセスメントで外部評価を得て、支援者、本人が集まって評価会議を行うことで、「卒業後は就労移行数か月利用からの就労継続支援A型への移行」、「就労移行で数か月様子を見て、就労移行か就労継続支援B型かを再度判断する」というように、本人のニーズに合った進路選択が実現できました。

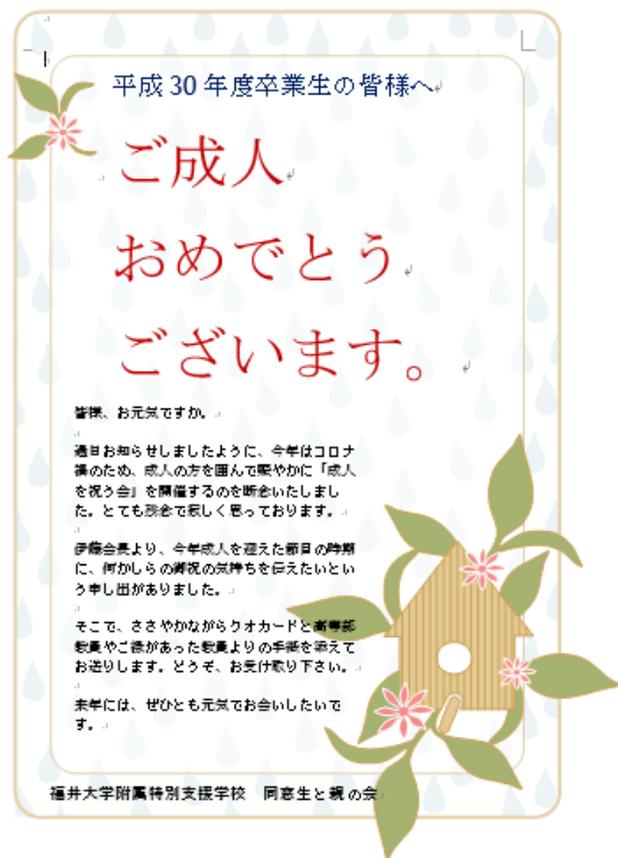
進路先決定後は、ショートステイ等を利用する予定の生徒は、区分認定調査を実施しました。また、福祉的就労に進む生徒は、卒業後の生活の組み立てや支援者同士の引継ぎ、顔合わせのためのサービス調整会議を行いました。一般就労に進路決定した生徒は、就労先、卒業後の就労をサポートしてくれる関係機関も交えて移行支援会議を開き、支援の共有を行いました。生徒達の長い将来を考えると、卒業後の進路先が全てというわけではありません。悩みながら進路変更する生徒、ステップアップしていく生徒など様々です。その際相談できる機関、支援者とつながっておくことが大切です。そのため、移行支援の会議の場を大切な機会と捉え、支援を進めています。

進路先事業所	市 町	区分	人数
社会福祉法人 虹の会 うめのき	福井市	就労継続支援B型	1名
ヤササキワイホーム新保店	福井市	一般就労	1名
株式会社スタンドトゥギャザー前進主義ふくい	福井市	就労移行支援	1名
ほのぼのハーツふくい LCコープカタログセットセンター	福井市	就労継続支援A型	1名
社会福祉法人ハスの実の家ハスの実パン工房	坂井市	就労継続支援B型	1名
社会福祉法人足羽福祉会 足羽サポートセンター	福井市	就労継続支援B型	1名
有限会社ワークハウス	福井市	就労移行支援	1名

成人を祝う会

本校は成人を迎えた卒業生と卒業生と共に学校生活を過ごした前後3年在籍生徒や元担任等に呼びかけ、「成人を祝う会」を開催しています。今年度の成人を祝う会（H30年度卒業生対象）ですが、新型コロナウイルス感染拡大のため、新成人を迎える卒業生の保護者の方とも相談した結果、今年度は開催を中止することにしました。社会情勢を見て、令和3年度にH30、H31年度卒業生を対象とした新成人のお祝いをしたいと考えています。

会は中止となりましたが、成人を迎えた卒業生に何か贈りたいということで、教員からの手紙とクオカードを郵送しお祝いしました。卒業生からは、LINEや手紙で学校や教員にお礼が返ってきました。「お手紙届きました。ありがとうございます。」「社会人は大変な事もありますが、頑張ります。」など大人になった卒業生の頼もしい言葉がつつられていました。1日も早く新型コロナウイルス感染拡大が収束し、昨年度の「成人を祝う会」のように皆で盛大に祝いたいものです。



進路に関する学習会～「親亡き後」を見据えて考える～

1月23日(土)に本校で「進路に関する学習会」を開催しました。今回は積雪やコロナ禍を鑑みて、オンライン(ZOOM)での開催となりました。

学習会を開くにあたって保護者アンケートをさせていただき、関心が多かった「親亡き後」について「①お金について②住まいに関わる事③入所について現在の状況について」の3つの内容について、今回はお話を聞かせていただきました。

★助言者

- ジェイアイシーセントラル株式会社 川崎陽子様
- 坂井市基幹相談支援センター 弓取寛様
- 足羽福祉会 足羽更生園 岡崎ゆかり様

★講演①「～ライフプランから考える～『親のわたしたちにできること』」



「早め早めに将来のことを話し合いたいと思っているが、実際にどうすればよいか分からない」

ライフプラン…安心して夢や目標をもって前向きに生活できるようにするための生活設計

親が健康で活動ができるうちに「親亡き後」について考えるべき。できれば60代までに。

※それぞれの人生があるため、兄弟や親せきには頼りすぎないように考える事が必要。

10代の課題

〈福祉サービスの利用〉

申請に向けての準備

〈就労を目指す〉

経済的な安定、社会との接点の確保、本人の生きがいのために重要

20代の課題

〈障害基礎年金等の申請〉

自動で支払われない、申請が必要

〈将来の住まい〉

入所施設やグループホームの情報収集
ショートステイの体験

30代の課題

〈お金の管理〉

・遺言書の利用 ・成年後見制度 ・信託

〈住まい〉

親から離れて暮らし始める

一部 16歳 → 19歳

太郎 46歳 → 49歳

花子 56歳 → 59歳

一部 20歳 → 29歳

太郎 50歳 → 59歳

花子 60歳 → 69歳

一部 30歳 → 39歳

太郎 60歳 → 69歳

花子 56歳 → 65歳

ショートステイ(短期入所)について
ぜひ活用を!!

- ・遺言書(自筆証書遺言、公正証書遺言)の利用
…家族の仲が良くても残しておくべき
- ・成年後見人制度(後見・補佐・補助)の利用
↑不正が多いので、後見監督人・信託制度も併せて活用
- ・日常生活自立支援事業…本人との契約

お金の管理 資産形成

親の支援なき後のための資産形成を考えます。
一部、月額2万円の経済支援を行い、LIFESの資産を残せよを考えると…



太郎 70歳 (健康寿命を考慮)

一部 40歳

一部の寿命を80歳と仮定すると…

$2万円 \times 12ヶ月 \times 40年 = 960万円$

- ・本人の収入では、赤字となることが多い。

→**終身保険**(お子様が保険金を受け取れるプラン)

一時払終身保険

(お子様のための資産形成と保護者様の老後の生活資金を補うプラン)

医療保険(使わなかった保険料が戻ってくるプラン)

個人型確定拠出年金 iDeCo

などの利用を

家族と地域

〈家族で話す〉

まずは家族で検討課題を共有することから始めましょう。
可能であれば親だけでなくお子様（本人・兄弟）を交えて話すこと、親なき後をシミュレーションしてみる。

〈地域のつながり〉

さまざまな支援機関や福祉担当者を巻き込んだ体制が整えられると、本人、支える兄弟も安心です。
地域活動に積極的に参加しお子様を理解する人を増やしておくこともそういった体制の構築につながります。

〈子どもの情報をまとめておく〉

今すぐできることとして、お子様が支援を受けるために、本人の必要な情報をまとめた「ライフスタイルカルテ」を作成する。

今からできること

- ◎親亡き後のシミュレーションを、本人・兄弟交えて行う。
- ◎地域活動に積極的に参加したり、支援機関や福祉担当者とつながったりする。
- ◎ライフスタイルカルテ（病歴、こだわり、好き嫌い、趣味嗜好など自己紹介文）を作成する。

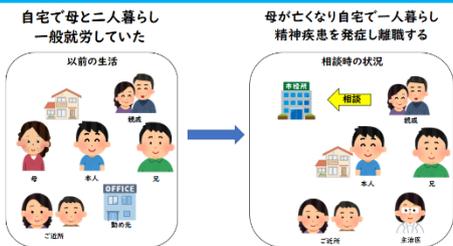
★講演会②「『親亡きあと』の生活を見据えて～事例を通して考える～」



「障がいを持つ子どもが1人暮らしをして困った時、どんな相談支援をしてもらえるのか知りたい。」

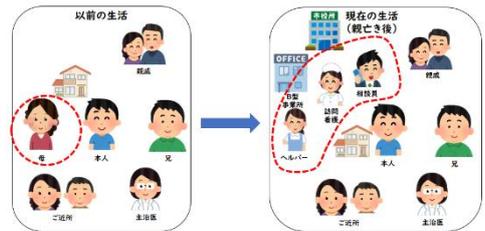
【事例1】40代男性。知的障害。精神障害（精神手帳2級）。現在、自宅で一人暮らし。

事例Ⅰ -相談経緯-



母1人が担っている役割が多かった
→現在は、
相談支援専門員
ヘルパー
訪問看護で分担

事例① -まとめ-



○支出の軽減

- ・居宅介護の利用
- ・通院費用の見直し

○就労支援

- ・受診同行
- ・就労継続支援B型事業所の利用

○自宅生活の継続

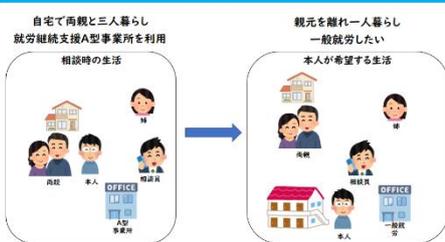
- ・生活サポート
- ・近隣住民との関わり
- ・兄との交流

○その他

- ・訪問看護の導入
- ・手続等サポート

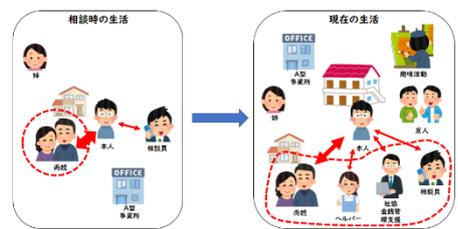
【事例2】20代男性。発達障害。精神疾患手帳。現在、アパートで一人暮らし。

事例Ⅱ -相談経緯-



両親がメインの関わり
→関わる度合いが減って分散されている
◎余暇の充実があり、新たな交流や目標が生まれた。

事例Ⅱ -まとめ-



○一人暮らしの支援

- ・宿泊型自立訓練の利用
- ・アパート探し
- ・居宅介護の利用
- ・金銭管理支援

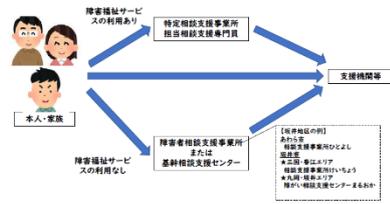
○就労支援

- ・就労継続支援A型事業所の継続利用
- ・ハローワークへの同行支援

○余暇の充実

- ・友人と交流
- ・趣味活動の充実

相談先を知る・作る



自立に向けて本人の希望する生活の確認

親がいる時から本人の自立に向けた生活について本人と家で考える機会を持つことが、本人の希望する生活を具現化するきっかけとなる。さらに現状や今後の生活について親の役割を明確にできると良い。

項目	現状	親の役割	今後(本人の希望)	親の役割
居住場所	自宅	自宅の維持	一人暮らし	手続関係
家事	自費の掃除・洗濯・調理	調理・洗濯	自分でできることはしたい	定期的な訪問
収入	月12万(工賃+年金)	月15万あると良い(親が収入+年金)	小遣いの確保	定期的な確認
食料管理	小遣いの管理	食料の確保に配慮を要す	小遣いと生活費の管理	定期的な確認

体験・経験する機会を得る

本人(と家族)の希望する生活に応じて体験・経験する機会を設定

例えば...

自分の身の回りのことや家事は自分でしたい
→自立訓練を利用し家事を経験→自分でできること(自信)や支援があればできること(安心感)が明確になる→選択肢が増える

今回の講義をきっかけに...

◎可能であれば、親御さんがいるうちから考えて、可能な範囲で他に分散していく。

支援者を増やす。

◎体験・経験する機会を得る→自信や安心感から選択肢が増える。

★講演③「障害者支援施設について」



「障がい者支援施設の実情を知りたい!入所したらどんなことをして過ごすの?すぐに入所できるの?」

利用者様の日課

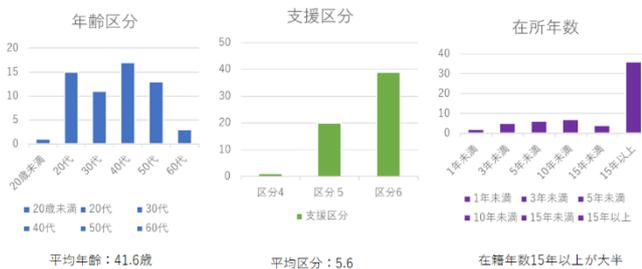
6:00頃 起床	13:00~ 活動及び
7:00~ 朝食	自動販売機利用支援
洗面・身支度	15:00 帰園準備
8:30~ 出発準備	マイクロバスにて移動
9:30 活動場所へ出発	15:30 帰園
10:00 活動場所にて活動	~17:50 入浴・余暇支援
12:00~ 昼食・歯磨き	18:00~ 夕食・歯磨き
	21:00 消灯

○お金は園で管理しておらず、ご家族や後見人が管理している。

○1ヶ月の利用料:3万~6万円程度
(所得によって補足給付額が変動)

○園で個人で使うお金(ジュース, 散髪代等)は
利用料の請求で計上

利用者様状況



入所待ち20名以上!!

希望を出したからといってすぐに入所できない。
希望を早く出したからといって優先されない。

受け入れは難しい現状!!

地域の中で「お子様にとってより良い生活は何か」を主軸に考えるのがポイント

◎いろんな機関とつながり、地域の基盤を作る。

◎様々な経験をする→将来の選択肢が広がる。

◎指示がないと動けない→自分で過ごせる時間、集中できるものを作る。

◎失敗を否定せず、正しい方法を伝えて一緒にやってみる。

すぐに入所は難しいので、ショートステイなど利用して地域とのつながりを作っておくと...



参加していただいた方の声



質問：人生の節目節目で支援者同士の話し合いの場はあるのか。

→相談支援専門員はプラン更新時期があり、サービス担当 4 者会議を開きます。定期的にだけでなく、必要に応じて相談員がコーディネートすることもあります。保護者から要望があっても開かれます。ただし、サービスを利用していないと…

質問：子どもが成人する前に突然親が事故などで亡くなってしまった場合は、どういった支援・サービスがあるのか。

→ケースによって状況（頼り得る親族の有無等）の違いはあると思います。養育者や居住の課題（障害児入所施設等への入所）や本人への心理的・精神的なサポートが必要となる可能性があり、児童相談所等との連携が考えられると思います。

質問：生活する上でお金が足りないケースがあると聞いていたが、生活保護を受けようと思うと、どういうケースがあるか？

→例えば一人暮らしをしている方の場合、その方の収入（就労収入、障害年金等）と最低生活費（居住地域等で変わる）の比較や貯蓄の有無、家族や親族等の金銭的支援の有無の状況等をふまえて申請の検討が必要です。生活困窮状態にある方に関しては、市町の生活困窮者自立支援事業の相談員とつながっておくことで、生活困窮状態の脱却に向けての支援や生活保護申請の必要性について相談をすることができます。

質問：就労継続支援 B 型に入るくらいの能力がある場合、就労先の数はいくら確保しているのか？数が少なくて入れない場合もあるのか。

→まず就労継続支援 B 型事業所は、業務内容や環境、定員の空き状況等事業所によって違いや特徴があります。利用希望の事業所が定員を満たしている場合は、利用できない可能性があります。また、就労継続支援 B 型を卒業後利用する場合は、事前に就労移行支援事業を利用した就労アセスメントを受ける必要があります。就労アセスメントはご本人の将来的な就労能力の伸び（成長力）など「働く力」に着眼し、今後の就労支援に活用していくものになります。就労アセスメント内容を参考にし、就労支援事業所（A 型・B 型・移行）の見学や実習を行い、卒業後に本人が希望する利用先を選択できると良いと思います。

質問：ダウン症の中には色々なケースがあると思うが、就労先で多いところを知りたい。

→ご本人の「働く力」や好むこと・得意なことを参考に就労先を考えることができると良いです。例えば「複雑な作業よりも軽作業が得意」などの業務内容に関することや「少人数での作業が良い」などの労働環境に関する事などが考えられます。



「もっと具体的な話が聞きたい!」「詳しく知りたい!」という方は、お子さんを担当されている相談支援専門員さんや、各地域の相談機関（『進路の手引き』をご覧ください）に、ご相談ください。



参加していただいた方の声



- ・親が亡くなった後の生活のことを、事例等を通して知ることができました。親が元気な内にしてあげられることはしていきたいです。そのためにも、まだ考える時期ではないと思うのではなく、今からできる事を少しでもしてあげられるよう(自立、余暇、得意なことをのばす)親としての役目を果たしていこうと改めて感じました。
- ・親なき後について今まで他人事のように考えていましたが、今日の学習会に参加して改めて、今から家族で話し合って計画を立てて行かないと行けないなあと思いました。また、地域とのつながり、支援機関とのつながりの大切さも改めてわかりました。定期的を開催していただけると非常にありがたいです。よろしくお願いいたします。
- ・親なき後ということで、ずっと先のことのようですが心構えができました。色々準備や話し合いを今後していきたいです。現状では施設がいっぱいのことですので、実際どうしたらよいものかと悩みも増えました。
- ・グループホームを考えていただけに、今後も入所が厳しくなっていくことになるかなと思いました。でも色々な人やサービスとの関わりを作って、助けを借りながら一人で生きていける術を、今から作って行けたらと思いました。
- ・親なき後、まだまだ先のことかと思っていたが、親が50~60代頃までには準備をしておく必要があることが分かり、焦った。親がいる間に色々な人のサポート体制を整えて、いつ何があっても大丈夫なようにしておきたいと思ったが、路頭に迷うのは我が子、自立必要を理解しているものの、生まれてからずっと一緒にいた我が子と距離を置いて生活するのは寂しいし不安だと思う。だが、心を鬼にして少しずついろんなことを身に付けさせ、母の私は子離れの気持ちを持ち、見守る子育てをしていこうと思う。よい話が聞けてよかった。

学習会へのたくさんのご参加、感想をありがとうございました!!

当日の資料は、先日のコドモンにて添付いたしました。

また、学習会のDVDを作成いたしましたので、ご覧になりたい方は担任までお申し出ください。

(ただし、個人情報観点から、足羽更生園の部分はカットされています。)

